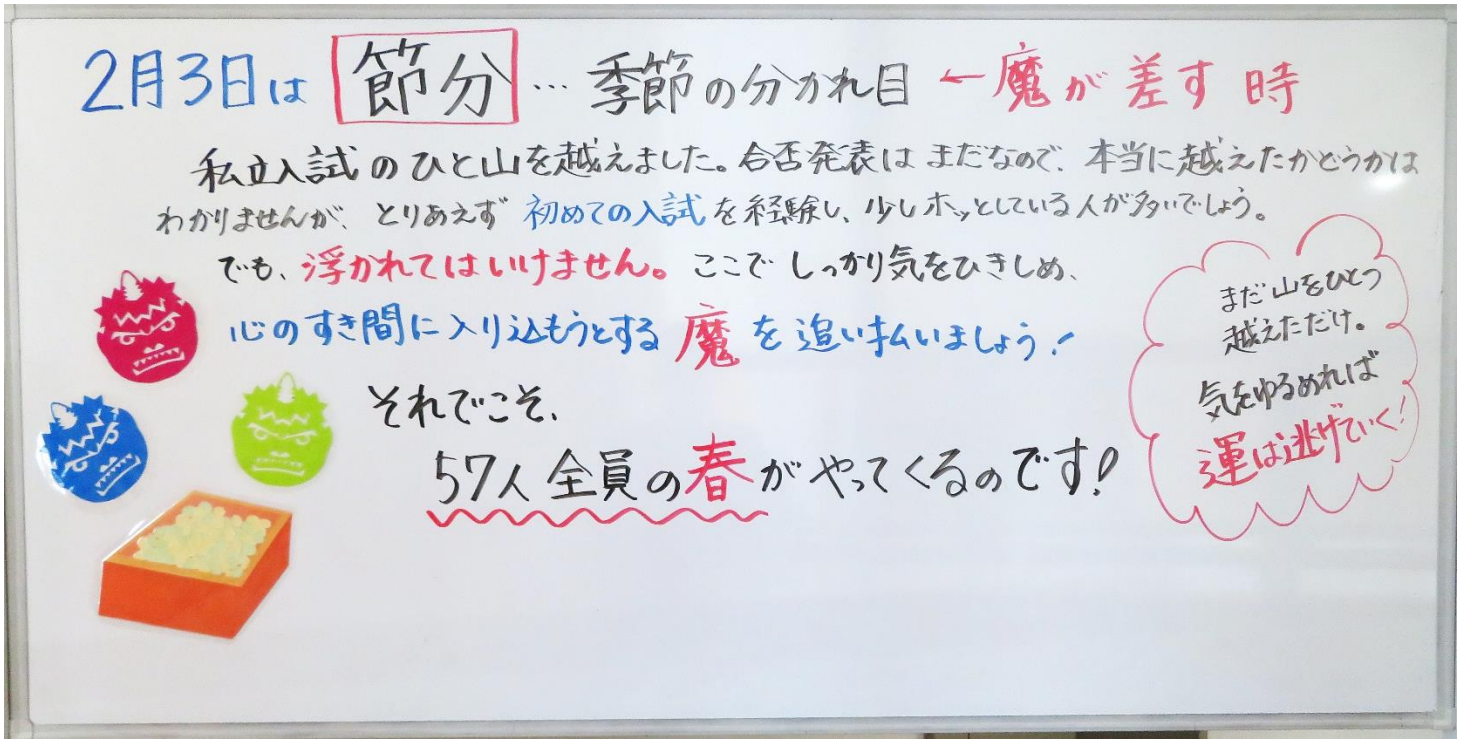
２／３　校長室より №164

　今日は「節分」、そして明日は「立春」。暦の上ではもう春です。とはいえ、窓の外に目をやると白いものが舞い、この地域では冬真っただ中で、春はまだまだ遠いような気がします。しかし、土の中や枝のつぼみの中では、まちがいなく春の準備は進んでいるはず。「冬来たりなば、春遠からじ」とはよく言ったものです。

　季節というと、春･夏･秋･冬の四季を思い浮かべるでしょう。でも、実は日本には 24 の季節があります。ご存じでしょうが「二十四節気」です。「啓蟄」とか「穀雨」「白露」などは実に趣のある言葉に感じますが、いかがですか。

　世の中では季節に関係なくいつも同じように野菜や花が出回り、いつが旬なのかわからないような状況さえあります。季節感が乏しくなっているのは否めません。二十四節気で自然の移ろいを感じていたように、本来、日本人とはもっと季節に敏感な民族だったのではないでしょうか。商業主義の影響が大きいのでしょうが、季節感が乏しくなっているというのは、もしかして私たちの“感じる心”が乏しくなっているとも言えるのかもしれません。

　節分・立春にあたり、「季節を感じる心」「みずみずしい敏感な心」を大切にしたいと改めて思ったところです。

節分に合わせて、１年生はおとといい、２年生は昨日豆まきを行いました。そのようすは、それぞれの学年通信をご覧ください。

３年生は、昨日で私立高校入試が終わりました。お陰さまで、全員が無事に受けることができました（発表まではドキドキですが）。そんな３年生の掲示板には、次のようなメッセージが･･･